

礼拝 2020年5月31日(日)

題 『聖霊が与えられた日』

テキスト：ヨハネ14：15～27

コロナウィルスはまだまだ気をつけないといけません、緊急事態は解除されました。そのような中、わたしたちは今日、イースター礼拝後、共に集まって礼拝できる幸いを心から感謝いたします。共に忍耐して歩んできました。集われた皆様、集えない方々の上に、神さまの慰めをお祈りいたします。今日は、地上に神さまからの霊、聖霊が降り、主イエスの教会が誕生したペンテコステ（聖霊降臨日の礼拝を共に捧げています。神さまの力である聖霊が与えられた日です。

この日、主イエスが復活された後、その姿を愛する弟子たちに現し、天に昇り、神さまの力である聖霊が弟子たちに注がれ主イエスの群れ(教会)

が地上に誕生したのです。ペンテコステとはギリシア語で50日目という意味ですが、主イエスが復活されてから50日目に当たります。

今日をご存じのようにこの後、礼拝の中で一人の兄弟の洗礼式が行われます。主イエスと神さまの愛の中にあることを感謝しながら共に過ごしたいと願います。ご本人、ご家族、教会にとって特別の喜びの日です。わたしたちにとって、今日は神さまからのプレゼントの日だと思います。

洗礼式は教会にとって格別です。目に見えない神さまが共にいてくださることを確信できる時です。洗礼式は感謝と慰めの時です。

さて、イエスは十字架の死を目前にいて、愛する弟子たちに語られました。

15:「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。16:わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。」と。

「弁護者」とは、ギリシア語で「パラクレートス」と言われ、聖霊のことなのです。その意味は、「慰め主」「助け主」です。

このパラクレートス「聖霊」を、イエスさまは、イエスを愛し、神を愛する弟子たちに与えてくださる日、「その日」が来ることを今日の聖書の個所でいろんなことばで語っておられるのです。そして「その日」はついに来たのです。

神さまと主イエスさまは、わたしたちと共にいてくださるのです。あたたかい愛の関係の中に入れてくださったのです。主を信じる信徒同士も本質的に、主イエスあって愛の関係の中に入れてもらっているのです。

聖霊は、わたしたちに教会に、求めさえすれば愛と慰めを、知恵と真理の認

識力を与えてくださるのです。

口語訳聖書のヨハネ第一の手紙3章1節には「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。」とあります。「そうだな～」と思うのです。「先行する神さまの愛」があったのです。みなさん、そう思いませんか。

神はわたしたちに最も大切な御子イエスを、それも十字架のイエスを与えてくださったのです。

私ごとですが、先日、2カ月ぶりに大好きな地域の銭湯に行くことができ身も心もあったまりました。緊急事態宣言が出されている中で、淡路島を舞台とした「あったまら銭湯」というタイトルの映画が、パソコンで無料で観れることを教えてもらい観ました。島の風景や人情が浮かび上がるあたたかい内容の良い映画で、ほっこりしました。今でも観れるかもしれません。

神さまとイエスさまの愛の中を生きるなら、この世では、さまざまな悩みや心配事は尽きることはありませんが、身も心も主にあって、あったまって生きていけるのだと思ったのでした。

18節「18:わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。19:しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きていますので、あなたがたも生きることになる。20:かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。」とイエスさまは言われました。イエスさまと聖霊は、肉眼の目には見えなくてもわたしたちと共にいてくださるということです。言葉を持って私たちの中に留まり、今は住んでいてくださるのです。ですから私たちは、もう一人ではないのです。わたしたちも主イエスと共に、神さまから新しいいのちを与えられて生きて行けるのです。そのいのちは、永遠につながるいのちなのです。

主日礼拝の最後の祝祷では、毎回、旧約聖書の預言者イザヤ書からのことばをお伝えしています。わたしは、このことばを、牧師生活の中で神さまから与えられたことばだと信じています。

今日のイエス様の愛する弟子たちの言葉の預言でもあると思うのです。

イザヤ書41章9節、10節より

「わたしはあなたを選び、決して見捨てない。恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神。」わたしたち一人ひとりに向けて与えられていることばです。わたしたち、神さまの力であり、善き力である聖霊、御霊を日々受けて残る生涯を心豊かに生きて行きたいと願います。皆様の上に、主の平和をお祈りいたします。

◆聖霊を与える約束

- 15:「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。
- 16:わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。
- 17:この方は、真理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。
- 18:わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。
- 19:しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きていますので、あなたがたも生きることになる。
- 20:かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいることが、あなたがたに分かる。
- 21:わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」
- 22:イスカリオテでない方のユダが、「主よ、わたしたちには御自分を現そうとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか」と言った。
- 23:イエスはこう答えて言われた。「わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。
- 24:わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。
- 25:わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。
- 26:しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。
- 27:わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

28:『わたしは去って行くが、また、あなたがたのところへ戻って来る』
と言ったのをあなたがたは聞いた。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くのを喜んでくれるはずだ。父はわたしよりも偉大な方だからである。

29:事が起こったときに、あなたがたが信じるようにと、今、その事の起こる前に話しておく。

30:もはや、あなたがたと多くを語るまい。世の支配者が来るからである。だが、彼はわたしをどうすることもできない。

31:わたしが父を愛し、父がお命じになったとおりに行っていることを、世は知るべきである。さあ、立て。ここから出かけよう。」